

みなこ
吉田 水子
金子 忍

めぐるいのちのコンサート - いわて川ものがたり -

2022年

1月15日(土)

もりおか町家物語館
浜藤ホール (岩手県盛岡市鉾屋町10-8)

- 2
回
公
演
- ① 開演 14時 (開場 13時30分)
終演予定 15時10分
 - ② 開演 17時30分 (開場 17時)
終演予定 18時40分

コントラバス奏者 吉田水子と作曲家 金子忍の演奏と歌による、命の尊さを歌った心温まる楽曲や、愛唱歌、クラシックなどを中心とした「めぐるいのちのコンサート」と、岩手の自然と歴史を綴った朗読と弾き語りによる「いわて川ものがたり」の2部構成でお贈りするハートフルコンサート！

● 料 金 1,000円 要予約 各回定員 40名様。未就学児無料。

● 出 演 吉田水子 (よしだみなこ) - コントラバス・歌・朗読 (ほか)
金子 忍 (かねこしのぶ) - 作曲・編曲・ギター・歌・朗読 (ほか)

プ
ロ
グ
ラ
ム

- 1部 めぐるいのちのコンサート
- 2部 弾き語りと朗読による『いわて川ものがたり』
(合唱と朗読による構成詩「いわて川ものがたり」から)
テキスト：川村光夫 (劇団ぶどう座 (岩手県和賀郡西和賀町) 元代表)
作 曲：岡田和夫
編曲・構成：金子 忍 演出：吉田水子

● 主 催 めぐるいのちのコンサート (いわて川ものがたり) 上演プロジェクト
(事務局：岩手県盛岡市神明町1-24 工房 夢繭*花 内)

● 協 力 工房 夢繭*花、スタジオ ククリ

● 特別協力 劇団ぶどう座、カフェステーション、喫茶 GEN・KI (岩山展望台下)、コワーキングスペース瀬織津姫

● 後 援 岩手県、岩手県教育委員会、岩手日報社、IBC 岩手放送、盛岡タイムス、テレビ岩手、エフエム岩手、岩手朝日テレビ、めんこいテレビ、えふえむ花巻、くもん式仙北教室・不動教室

お
問
い
合
わ
せ
ご
予
約

TEL: 080-3478-1566 (吉田)
090-6313-2818 (金子)
Mail: minaco@cotori.jp

プレイガイド

- 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
風のスタジオ (盛岡市着町4-20 永卯ビル3階)
- もりおか町家物語館 (盛岡市鉾屋町10-8)

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、1部と2部の間で換気をいたします。休憩はありません。/当日はマスク着用のうえ、熱がある方や体調がすぐれない方は無理をなさらずご来場をお控えくださいますようお願いいたします。また、当日はグループ代表の方のご連絡先のご記入にご協力ください。/感染拡大が著しく、会場地域での緊急事態宣言等が発出され、日程の変更や中止が余儀なくされた場合は払い戻しいたします。ご来場前に最新情報をご確認ください。

本事業は盛岡市芸術文化創造事業補助金を活用して実施しています

開催にあたって

私にとって忘れたくない、大切な記憶がいくつかあります。生まれ育った北海道と盛岡市仙北町の父の実家の思い出、そして神奈川での記憶です。

私は両親の仕事の関係で、北海道美深町に4歳まで、大自然に囲まれて育ちました。その後越した神奈川も当時は自然に囲まれ、すぐ近くではお蚕さまを飼っていました。

盛岡市仙北町にあった父の実家での思い出は、大人になって考えてみると、ささいな事ばかりです。たとえば、実家の前の用水路で近所の女性たちが洗い物をしてた姿。通りにある電柱に止まっていたコウモリをととても愛おしく感じたこと。幼い頃に祖父が亡くなり年に1回だけお参りする時、不思議なことにどれが吉田家のお墓なのか、いつも間違えずに辿り着けたこと。小さな頃、祖母の話す方言がよくわからず、戸惑っていたけれど、いつの間にか父より私の方が祖母の言葉を理解していたこと。父の実家にあったぼんぼん時計が夜中になると怖かったことや、普段は大して弾かないのに、父の実家のピアノは弾きなくなったこと…。今はこの世にはいない祖父母や従兄弟の懐かしい顔がありありと思い出されます。

思い起こすと記憶にあるのは美深と盛岡のことばかりです。「なぜ一番長く暮らした神奈川の記憶があまりないのだろうか」と考えると、遠因に現実逃避があったのでは、と思ひ至りました。

私の両親は児童施設職員で、両親と共に施設内の職員寮で暮らしていたので、大人たちの会話の中で、施設の子どもの話を頻りに耳にしました。当時子どもたちは15歳になると施設を出なければならず、卒園した子どもたちを待ち受ける現実が過酷なものでした。非行に走ってしまった子を、父が警察に引き取りに行くことも何度もありました。私は幼心に「15歳で卒園した子どもたちは大変だろうな」と思っていました。そして、「なんだか私だけ優遇されているようで、申し訳ないな。」という気持ち…。あの時からずっと、あのもやもやとした感情が胸の中に取り残っていました。その感情が現実の記憶に、無意識に蓋をしておいたように思います。

そんな私の思いをよそに、父は現実に向き合い、決して諦めず、子どもたちに愛を注ぎ続けました。子どもたちが何度道を踏み外しても「自分が信じてやらなければ、誰が信じてやるんだ」と…。

その父の後ろ姿と、私自身が注いでもらった父母や祖父母や親戚の方々からの愛、そして大自然からの愛が「めぐるいのちのコンサート」へと導いてくれました。「めぐるいのちのコンサート」のテーマは、「いのちはめぐり、つながっていく」こと。そして「愛」。これには、私の幼少のころの思い出と、父の生き方が影響しています。

また、「いわて川ものがたり」という作品に出会ったことも、必然だったと確信しています。「いわて川ものがたり」を読みその曲を聴くと、岩手で暮らしていた家族や親戚の人たちがより一層近くに感じられ、同時に自分の命はご先祖様から脈々と引き継がれてきた尊い命で、「大切な贈り物」であると実感しました。

ここにある私の「命」に感謝し、音楽を通して「めぐるいのち」の尊さをたくさんの方に、そして未来につないでいきたいです。

※ 岡田和夫（おかだかずお）

作曲家。劇団俳優座・劇団前進座・劇団風の子等の演劇音楽を多数手がけた（前進座養成所・劇団風の子付属児童演劇研究所講師も歴任）他、俳優座の千田是也氏の主宰した「プレヒトの会」を通して岩手県湯田町（現・西和賀町）で劇団ぶどう座を主宰されていた川村光夫氏と交流があり、ぶどう座の演劇音楽の作曲や、「湯田町町民憲章」への作曲、湯田小学校校歌の作曲もしている。

また、第一混声合唱団（東京都三鷹市で活動）を47年にわたって指導し、数多くの合唱曲を残しており、「よだかの星」（テキストは原文通り）、「グスコブドリの伝記」（テキストは劇作家のふじたあさや氏＝劇団えるむの演中歌として作曲され、その後四部合唱に編曲）等を合唱曲化した他、「イーハトーブファンタジー」「宮沢賢治へのオマージュ」など、宮沢賢治の詩や言葉をテキストとした合唱曲作品も多い。

「合唱と朗読による構成詩 いわて川ものがたり」について

川村光夫・テキスト／岡田和夫・作曲による、朗読と合唱によって構成された合唱組曲で、岩手県を流れる川と、岩手の歴史を語り合唱で綴った壮大な作品。岩手の四季の風景と、石川啄木、宮沢賢治、アテルイ・モレと大和朝廷軍の戦い、藤原三代の栄華、遠野物語、南部三閉伊一揆、そして昭和のダム建設、東日本大震災までのエピソードが、川の流れに沿って時代を前後しながら物語られており、合唱曲には、宮沢賢治の詩や石川啄木の短歌を歌詞としている曲も複数ある。

作品の初演は1991年。北上市が町村合併する際に記念事業の舞台作品として地元の俳優と女声合唱団によって演奏され、その後、語りと独唱・四部合唱の形に編曲された。第一混声合唱団では1992年に初演され、2006年と2013年に再演。1998年と2014年には湯田町（西和賀町）銀河ホールで公演した。再演の度にテキストと新曲が書き加えられている。（初演と、2014年の銀河ホール公演は、ぶどう座の俳優による朗読）

金子は、1994年から第一混声合唱団メンバーとして参加しており、初演以外は出演している。

2021年3月より、金子が、コントラバスとギター伴奏で二声で歌う形に編曲し、吉田水子と共に岩手でのコンサートで数曲ずつ発表している。



よしだ みなこ 歌・コントラバス・
吉田 水子 ピアノ他・MC

動物（特に猫）をこよなく愛するコントラバシスト。東京藝術大学音楽学部器楽科・桐朋学園大学音楽学部研究科卒業。「ロバの音楽座」メンバーとして子どものための舞台作品に長く関わる一方、躍動感あふれる伸びやかな演奏と弾き語りでも幅広く活躍する。

2015年、野口英世記念ばんだい高原国際音楽祭に招聘され、リサイタルも開催し、好評を得る。同年より「吉田水子企画」を主宰し、公演を企画・上演する。（2020年、日本青少年音楽芸能協会に加盟）

2017年、乳幼児と母親父親向け音楽劇作品『おじゃま猫とたまご』を制作。乳幼児からシニアまで幅広い世代から好評を得る。以後『おじゃま猫と小さなともだち』『おじゃま猫とふたりの楽士』『猫のシビル』『めぐるいのちのコンサート』等の作品を制作。全国の保育園・幼稚園、小学校、児童館、公共ホール、児童福祉施設、福祉介護施設、子ども・おこ劇場、児童青少年舞台芸術フェスティバル等で公演を行っている。

2018年から、俳優・井上弘久氏の「独演『椿の海の記』」（原作・石牟礼道子）の音楽を担当。全11章を3年かけて上演。2021年秋より東京を皮切りに、全国行脚を開始。

吉田水子企画代表。父の実家は、岩手県盛岡市仙北町。

URL: <https://yoshidaminacoplanning.jimdofree.com>



かねこ しのぶ
金子 忍 歌・ギター・語り（朗読）

作曲家。舞台実演家。東京学芸大学教育学部卒業。作曲・歌唱を故・岡田和夫氏（※）に師事。西澤健一氏にも作曲の手ほどきを受ける。

教職の傍ら劇団風の子付属国際児童演劇研究所に学び、その後、主に演劇と子どものための音楽の作曲家に転身。プロ劇団、市民ミュージカル、アマチュア劇団、中学校演劇部へも楽曲提供や歌唱指導を行い、「ことば」を生かした作曲と生き生きとした表現を引き出す指導が高く評価されている。中学校演劇の大会・講習会講師など、演劇教育に関わる仕事も多い。

児童・青少年からシニアまで幅広い年齢層を対象にしたコンサート・音楽劇に出演。ホーミーにも似た倍音を含む癒やしの歌声と、日本語の「ことば」がしっかり伝わる歌唱に定評がある。吉田とのレパートリー曲ほぼ全ての作曲・編曲を担当。

2017年、第30回かぶらの里童謡祭作曲募集・富岡市議会議長賞受賞。

URL: <https://sinobcat.jimdofree.com>

